

| | | | | | | | |
|--|--|-----|------|---------|---------------------|------------|---------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 環境デザイン論(CA301) (実践的教育科目) | | | 担当教員 | 原 哲弘 (実務経験のある教員) | | |
| 展開方法 | 講義 | 単位数 | 2 単位 | 開講年次・時期 | 3 年・前期 | 必修・選択 | 選択 |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブラーニングの類型 |
| 土地を理解するために自然環境として気象、水、土壌、植生、動物、鉱物、大地の地歴等を分析する方法を学び、次に人文社会環境として、文化、民俗、宗教、建築、政治、歴史等をデータと合わせて分析する方法を学ぶ。更に大地の持っている『フィジカルな遺伝子』と、そこで営む人々の『精神世界の遺伝子』の両方のエッセンスを抽出し、そこからフェーズⅠになる「コンセプトを創造する方法」を学ぶ。次のフェーズⅡでは人々と大地の歴史から「暮らしのデザイン」を考え、さらにフェーズⅢでは創造したものから基本構想作成を行う。そして一連の授業から文字・言語表現だけでなく、スケッチなどのビジュアルな表現力が身につく人になるのがねらいである。 | | | | | | | ⑩⑪⑫ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | 社会人として必要な環境や景観に関する基礎的知識を有し、実践することができる。 | | | | ・課題レポート | 20% | |
| 情報収集、分析力 | さまざまな現代社会の「環境や景観問題」を「自然環境や社会環境」の情報収集を行うことで分析することができる。 | | | | ・課題レポート ・小論文 | 30% 10% | |
| コミュニケーション力 | | | | | | — | |
| 協働・課題解決力 | 多くの人と協働しながら課題を文字表現だけでなく、図表、スケッチで表現し、自らの考えを基本構想として創造することができる。 | | | | ・課題レポート | 20% | |
| 多様性理解力 | 環境や景観に関わる基礎的な知識を有し、環境デザインの趣旨が説明できる。 | | | | ・課題レポート | 20% | |
| 出 席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合 計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 課題レポート（A3 彩色図面と A4 趣旨説明書）を 4 回（講義 2 回目、7 回目、10 回目、14 回目）行い、課題提出後に毎回、授業で総評を行う。また小論文を講義 13 回目に実施し 15 回目の授業で小論文総評と全体の振り返りを行う。 | | | | | | | |
| 授業の概要 | | | | | | | |
| この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、180 分である。建築学、都市計画学の実務経験を基礎として授業を行う。なぜ今、環境デザインなのかを最初に学び、フィールドワークにより実践的な企画・報告書の書き方を学ぶ。次に景観論、エネルギー論、建築論、都市・ランドスケープ論、様々な法体系や環境デザインの潮流を学ぶ。そして授業の進捗に併せて実技のデザイン演習を実施し表現方法を身につける。授業は板書・パワーポイントを用い、時には映像による説明を加えることで理解を深めることができる。事前に A3 トレーシングペーパー（20 枚程度）と色鉛筆の準備が必要である。なお、フィードバックは授業やポートフォリオを通して適宜行う。 | | | | | | | |
| 教科書・参考書 | | | | | | | |
| 教科書：随時プリントを配布する。参考書：仙田満 著『環境デザインの手法』／彰国社の書籍を推奨する指定図書：アレックス・カー著『犬と鬼』／講談社学術文庫 | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| 国内だけに留まらず地球環境を意識した視点に立ち、大地の分析と空間創造を学び、更にスケッチ・企画書の表現力を養う習慣を身に付ける。創意・工夫した『コンセプト』をもとに、実際の計画地に図面を書きあげる。この一連の流れの中で文章では表現できない『具体的なビジュアル表現方法』を身につけ、自らの個性を再発見してほしい。またスケッチが下手であると思っている人でも、事前に何度も自宅で練習をすることで誰もがスケッチ描写が可能になる。 | | | | | | | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|----|----------------|---|-------------------------------|
| 1 | 現在の環境問題の背景 | 現在、地球環境を取り巻く現状を理解し、一人ひとりがどのような取り組みができるのか解説する。 | シラバスの熟読 |
| 2 | 環境デザインの概念 | 環境デザインの概念について歴史を通して説明し、これからの環境デザインのあり方などを講義する。 | 環境デザインの概念について予習 ・課題レポート①回目 |
| 3 | 地域づくりの調査方法① | 近隣市町村を題材に自然環境特性(気象、地質、植生、動物など)の把握と分析について説明する。(レイアーケーキ) | 環境デザインの概念について復習 |
| 4 | 地域づくりの調査方法② | 近隣市町村を題材に人文・社会環境特性(歴史、文化、美術、景観など)の把握と分析について説明する。(暮らしの曼陀羅) | 地域づくりの調査方法①について復習 |
| 5 | 企画書及び報告書の書き方 | 近隣周辺の計画地をモデルにして共通するテーマを定め企画書の書き方等を学ぶ。 | 地域づくりの調査方法②について復習 |
| 6 | 基本構想図の作り方(実技) | スケッチ・図面の表現方法を学ぶ。遠近法、植栽計画、彩色方法などをトレーシングペーパーにより表現する。また企画書の表現力を身につける。(実技) | A3トレペ・色鉛筆の準備が必要 |
| 7 | 課題レポート(実技) | 実施したデザインの説明文を考える。各自が考えた趣旨をワード、エクセル、イラストレーターなどで文章表現する方法を解説する。(実技) | スケッチ・図面の表現方法の予習 ・課題レポート②回目 |
| 8 | エネルギー論 | 新エネルギー(太陽、風、地熱など)、エネルギーから見た環境デザインを考える。また、それによってできる地域デザインの理由を講義する。(地中熱の説明) | スケッチ・図面の表現方法の復習 |
| 9 | 建築・景観論 | 日本と海外を含め、おもに建築史、建築意匠、建築構造を中心に説明する。事例としては神社建築、それに教会建築、最近の美術館建築を取り上げる。 | エネルギー論について復習 |
| 10 | 都市・ランドスケープ論 | 日本と海外における都市の人々が織りなした歴史と土地のインフラの材料を取り上げる。また植栽、建築、美術など全体を含めたランドスケープの講義をする。 | 建築論について復習 ・課題レポート③回目 |
| 11 | 法律の体系 | 日本における各種法律の説明を講義する。自然公園法、都市計画法、建築基準法、地域条例、ハートビルド法、省エネルギー法、道路交通法などの概略を講義する。 | 都市・ランドスケープ論について復習 |
| 12 | 環境デザインの潮流 | 世界における、新しい潮流として環境デザインによる施設群の紹介を行い、そこに流れる環境への取り組みを考える。土地の自然環境に沿った、施設づくりがあり、その結果としてのデザインや景観のあり方を解説する。 | 法律の体系について復習 |
| 13 | 環境デザインのコンセプト作り | 講義3、4で調査したことから、講義8、9、10、11で理論を学び、講義12を手法として、講義5、6の表現方法で基本構想を作り上げることを学ぶ。 | 環境デザインの潮流について復習 ・小論文① |
| 14 | ライフサイクルコストについて | 地球環境を考えるときに、フィジカルな部分での長期的視点に立った環境循環によるライフサイクルコストの概要の講義を行う。さらに、小論文に対する評価を講義する。 | スケッチ・図面のかき方を復習 課題レポート④回目 |
| 15 | 課題レポート(実技) | 課題レポートの説明をする。近隣の計画地を題材とした模擬実施計画であり、計画地の条件、各種情報を提供し、実際に計画を立てて表現できるように解説する。(実技) 小論文の総評。 | A3トレペ・色鉛筆の準備 |